

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0175000520		
法人名	法人種別:医療法人	法人名:医療法人社団北星会	
事業所名	医療法人社団北星会 グループホーム ふぁみりあ		
所在地	北海道北見市北3条西3丁目13番地 アスタービル3F・4F・5F		
自己評価作成日	令和2年6月11日	評価結果市町村受理日	令和2年7月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・日勤者4名、夜勤者2名の勤務体制になっている。 ・入居者の希望により、外出(花見、外食、観光、散歩、美容室、買い物、墓参り等)をしている。 ・街の中心なので買い物、通院などが便利。 ・スタッフと入居者が家族同様に係わっている。 ・入居者の誕生日には誕生会を開催しお祝している。 ・家族来所時には最近の様子を話したり、写真を見てもらったり、変化があればその都度説明し、話し合いをしている。 ・昼食に入居者スタッフ全員で出前を注文したりカップ麺を食べることもある。 ・リフレッシュ休暇制度や人事考課制度を取り入れ、昇給や職員が意欲と向上心を持って働けるようにしている。 ・毎日30分以上のレクリエーション又は散歩などを行い日常生活にメリハリをつけている。 ・2か月に1度パンバイキングを開催している。
--

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	mhiv.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosvoCd=0175000520-00&Se
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 NAVIRE
所在地	北海道北見市とん田東町453-3
訪問調査日	令和2年7月14日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>グループホームふぁみりあは、北見市中心部にあるビジネスホテルの3・4・5階に開設された3ユニットのグループホームとなっています。開設時から理念“ゆつくり ゆつたり ゆるやかに”は職員に浸透し、常に意識しながら実践に取り組んでいます。開設時から各ユニット夜勤2名日勤4名体制を堅持しており、手厚い職員配置は職員が利用者と関わる時間に余裕を持って臨む事が出来ています。事業所では利用者の担当者を中心に、利用者のこれまでの人生アルバムを制作したり、その時代の社会背景も織り込んだライフストーリーを作成し、生活歴を把握する事で利用者一人ひとりの理解へと繋げています。日常の介護提供にも様々な工夫しており、毎日外気に触れる事を目標に日光表を作成したり、回想法のDVDや元家族とユニットリーダーによる音楽療法等、みんなで楽しんでおり、今年はパンバイキングを実施して利用者に喜ばれています。更に、外出支援にも数多く取り組み活力ある暮らしが送れる様に支援しています。家族とはコミュニケーションを大切にすることを心掛け、家族の参加を得たサービス担当会議の開催や連絡を細やかに取り、信頼関係を築いています。運営推進会議は毎回3ユニット交替しながらユニットリビングで開催し、利用者一名も参加し、様々な意見を運営に反映しています。常に様々な取り組みを行いながら利用者、家族、職員がお互いに寄り添い、支え合いながら明るく楽しく和やかに暮らしている様子が伺えます。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆつたりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	自分らしく安心して生活出来る様に「ゆっくり ゆったり ゆるやかに」の理念を共有し実践へとつなげている。	ユニット玄関やパンフレット、事業所便りに理念を掲載し浸透に努めています。更に、ミーティング時に理念を唱和し、職員は意識しながら実践に努めており、何かあった時には理念に沿って振り返り介護提供の指針としています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	天気の良い日には町内を散歩する事で地域の人達と挨拶をしたり、地域の一員として日常生活を送っている。また、町内会へも参加している。	町内会に加入し、プライバシーに配慮した事業所便りを回覧し事業所の理解に繋げています。商店街に立地しており、散歩時に挨拶を交わし、交流しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の人に向けて認知症の理解を深めるため、月に1度ふぁみりあ通信を町内会に回覧したり介護福祉課・中央地区地域包括支援センター・玉越病院に配布している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を家族、町内会長、地域包括支援センター、民生委員と2か月に1度行い日頃の報告や話し合いをしサービス向上に活かしている。	利用者、利用者家族、町内会役員、民生委員、地域包括支援センター職員、行政職員をメンバーとして各ユニットリビング交替で開催しています。参加案内及び議事録は全家族に送付しています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護福祉課、生活保護課などと様々な内容について密に連絡を取り合い協力関係を築いている。	行政とは相談や情報交換、困難事例の相談等に努め、連携を図り、運営に反映しています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員が日頃より身体拘束をしないケアを取り組むにあたり、年に4回身体拘束廃止委員会を開催している。また、訪問者の目の届く玄関に身体拘束についての張り紙を貼っている。	年4回の身体拘束廃止委員会を開催すると共に、内部研修を開催して身体拘束の及ぼす弊害を学んでいます。「だめ」「どこいくの」の言葉をNGワードとして取り組み、スピーチロックに注意を払っています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の内部研修を年に1回の内部研修を行いスタッフ一人ひとりの意識を高めている。また、入居者への虐待が見過ごされないように注意を払っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	資格の取得、研修会への参加等それらを活用できるように支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約時には十分な説明を行い、不安や疑問が残らないように納得、理解を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営に反映させるため、入居者や家族へ日々の生活の中の意見や要望を聞き入れている。	家族の面会時には状況を伝えると共に、何かあった時には細やかに連絡しています。ユニットごとに家族を招待しての行事を行いコミュニケーションに努め、何でも言って貰える関係を築いています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、全スタッフのミーティングを行い、管理者と共に意見や意向等を聞き運営に反映させている。	管理者は、毎月のユニット会議時やユニット長会議、日常業務時に職員の意見や提案を聞く機会としています。更に、年に一度人事考課を実施し、意向の把握に努めています。リフレッシュ休暇を導入し、職場環境整備に取り組んでいます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は全職員個々の勤務体制を把握し、向上心、意欲が持てるような人事考課制度を導入し昇格、昇給を行っている。また、リフレッシュ休暇制度も取り入れている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個人のレベルに合った研修会に参加させたり、教育担当を配置する事により、一人ひとりのケアの力量を把握し、新人介護スタッフ育成計画書を活用したりしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	向上に努めるため他事業所との交流や意見交換をし、研修会や勉強会にも積極的に参加している。また、北海道認知症グループホーム協会に属し情報共有を図っている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前面談の際には入居後も新たな要望に応えられるように多くの情報を聞き、安心して生活できるように支援し信頼関係を築いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時に家族の意向を確認し、いつでも要望が聞けるよう入居後にも家族来所時には信頼関係を築ける様に声掛けをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談の際や入居時には本人や家族の意向を元に必要である支援を見極め、他のサービス利用を含めた対応や紹介を行った支援をしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に日常生活を共に暮らし、日々の中で学び関係を築ける様、調理や洗濯物干しなど行っている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コミュニケーションを家族と共に図りながら入居者を支えていけるよう日常生活をしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の希望や要望に応じ昔からの友人、知人等が自由に入出りでき、自室でゆっくり楽しく過ごせる環境作りをしたり、電話の取り次ぎや外出の支援を行うよう心掛けている。	友人や知人が訪問した時には歓迎し支援に努めています。家族と葬儀に出掛けたり、孫の結婚式への参加、希望で趣味の継続を支援する等、家族の協力を得ながら、利用者のこれまでの関わりを大切に支援に努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係を大切にし、一人ひとりが孤立しないように努め意思疎通がし合える様に支援を行っている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も連絡が出来る関係を構築するように、いつでも本人や家族からの相談に対応できるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族の希望を重んじ入浴、食事、外出など意思が反映されるように努めている。	利用者の人生を彩るアルバムの作成やライフヒストリーを作成し生活歴を把握する中で、日常会話や様子から意向や希望の把握に努め、職員間で情報を共有し思いの実現に取り組んでいます。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族より生活歴を聞き、これまでの暮らしを敬うよう自分史やライフストーリー表を作成し支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送り等で詳しく報告し、日誌、温度板への記録など一人ひとりの実情を職員同士が把握できるようにしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	現状に即した介護計画を作成し、モニタリングからケアプランを行い、本人、家族、関係者と協議している。	利用者、家族が参加したサービス担当者会議を開催して意向を把握し、毎月担当者によるモニタリング、職員が参加してのカンファレンスを行い状況に即した介護計画を作成し、定期的に見直しを図っています。	職員は利用者の介護記録を把握し、確認しながら介護提供に取り組んでいますが、介護記録に介護計画が反映されていない状況となっています。介護記録を工夫する中で介護計画実施状況が把握出来る様になることを期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の様子を日誌や温度板に記録し、ケアの実践をサービス担当者会議でスタッフ、家族で話し合い、ケアプランの見直しに最大限活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の状況に対し柔軟な支援やサービスの多機能化に足り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	安全で豊かな暮らしを楽しめるよう、スーパーや美容室など利用し、一人ひとりの意向を支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の希望に合わせて市内医療機関を受診できるように医療機関と連携を取りながら支援している。	利用者や家族が希望するかかりつけ医への受診は事業所が対応しています。歯科の往診や訪問診療を利用されている利用者、週1回の看護職員により健康管理が行われ利用者、家族の安心に繋がっています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常生活の中での気づきを共有し職場内の看護師や、訪問看護師に伝え助言をもらうなどの連携を取り、適切な受診や看護を受けられるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時にはフェイスシート等で本人の情報提供を行っている。また、医療機関と密に情報交換をし、安心して治療が受けられるようにしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	体調の変化があった場合には迅速に対応して、日頃よりかかりつけ医や職場内の看護師と連携を密に取っている。	現時点では契約されて看取りを希望されている方は行っていますが、新規契約者に関して入居時に事業所で看取りを行えない事業所の現状、理由を説明し理解を得ています。職員全員の看取りへの意識を高め、心身ともに行える状態になることを目指しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は消防の普通救命講習を受けている。目の届く場所に対応マニュアルを設置し、日頃より条件を変えてのシュミレーションを心掛けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防訓練を行い、全職員が避難訓練を身につけている。また、対応マニュアルも設置しており、スプリンクラーや消防通報装置を想定した訓練を行っている。	年2回、夜間想定で避難訓練を実施しています。寒さ対策としてカセットコンロストーブなどを用意し、居間に設置されている消火栓の使い方や避難方法などは職員全員が熟知しています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーに関わる会話は本人の耳元で話すなど、人格尊重に配慮している。呼び方も本人家族の了解のもと本人が慣れ親しんだ呼び方をしている。	家族と相談し信頼関係を築いたうえで聞きなれた呼び方で呼び、大声で話さず個人的なことは居室で話すよう心がけています。人感センサーは使用している事が他者にわからないようプライバシーに配慮しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定が出来るように質問型の声掛けや、日常生活の中で一人ひとりの希望を優先し、をするようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望や要望がある場合にはスタッフの都合は優先せず、入居者一人ひとりのペースを大切にしそれに添えるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう本人の希望する美容室へ行ったり、一緒に買い物をしたりしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	スタッフと一緒に食事の準備や盛り付け、食器洗いや食器拭きを行っている。また、入居者の希望に合わせた外食をしている。	週2回、職員と一緒に食材の買い物から下ごしらえ、調理、後片付けなど出来ることを行っています。初パンバイキングでは好きなパンを選んだり、サンドウィッチを作ったり楽しく食事ができるように取り組んでいます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の食事量や水分量をチェックし、一人ひとりの状態等を見て栄養のバランスを取っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人が出来る範囲行って頂き、出来ない部分は職員が介助し、毎食後声掛けし口腔ケアをしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの習慣を活かし紙パンツの使用を減らしたり、トイレでの排泄や、その人の状態に合わせて排泄の自立に向け支援している。	排泄チェック表をもとに利用者一人ひとりのパターンを把握し、タイミングを見極め声掛け誘導で出来るだけトイレでの排泄を促し支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりの排泄回数をチェックし、週に3回食事の中に乳製品を取り入れたり、毎朝のラジオ体操を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴前にはバイタル測定し体調の変化に注意し、入居者の希望や体調に合わせて最低週に2回は入浴出来るよう声掛けしている。	利用者の体調や希望を考慮し、最低週2回の入浴を支援しています。血圧が不安定な方は医師の指示のもと清拭にしたり、歩行困難な方のためにシャワーキャリーを購入し安全・安心に入浴できるよう行っています	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	状況に応じては休息して頂き、気持ちよく眠れる様にリネン交換を行ったり、入居者が馴染んだ物を使用している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更があればその都度全スタッフに申し送り、薬の目的や用法、用量をファイルを見て把握出来る様に作成している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活の中で一人ひとり張り合いを持って頂き、食事の手伝いや裁縫などをして頂いている。また、毎日のレクリエーション等で気分転換を図って頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの体調を考慮し地域のイベントやドライブ、買い物や散歩等、外出出来るよう支援している。	散歩や買い物、祭りの見物、市内の公園巡りに出掛けたり、外泊や結婚式に参列したりしています。日光表は外出できてない利用者を外気に触れて頂く目安になってります。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	毎月全入居者のお小遣い帳をコピーし家族に郵送している。また、家族と本人の希望を優先し本人管理の場合にはお小遣い帳をスタッフと共有できるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に添って家族や知人にいつでも電話が出来る環境作りをしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族的な雰囲気を感じて頂けるように工夫し1年中過ごしやすい環境作りを心掛けている。また、温度、湿度を設定し管理しています。	職員は利用者に関わることを最優先と考え、寄り添い利用者のペースに合った生活が出来るよう心がけています。ゲームや風鈴を作ったり、入居者だった家族と職員がユニットを組み音楽を披露するなど楽しい一時を過ごしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	椅子、テレビの配置等を考え他者様とのコミュニケーションを取って頂けるよう工夫している。キッチン横に人の気配を感じながら一人になれる椅子を用意している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	状態に合わせて人感センサーを設置し転倒防止に努めている。また、居室には本人、家族と相談し、使い慣れた物や好みの家具を配置し、快適に過ごせるよう工夫している。	利用者が使っていた家具や調度品などが持ち込まれています。その人らしく今までの生活習慣を継続し居心地よく過ごせるよう取り組んでいます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各所に手すりを付けたり、車椅子が使用できる広さを確保し、自立した生活が出来るよう環境作りを工夫している。		